

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	伊万里市立黒川小学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>○全校で同じ方向性で取り組む「黒川スタイル」の確立や、タブレット端末の有効活用による授業改善を全職員で図る。特に、互いに授業を見合ったり、他校の研究発表会へ参加するなど、研鑽の場を増やす。</p> <p>○「スタディーワーク」を継続するとともに、家庭学習の内容について検討したり、家庭学習の必要性について考えさせたりする取り組みの充実を図る。</p> <p>○学校サポーター関係の行事や体験活動を年間計画や教育課程に位置づけ、学校サポーターとのつながりを深めて学びの充実を図る。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症の分類が変わることから、以前の活動の良さを継ぎつつ、ニューノーマルへの転換を図る。</p> <p>○外遊びの推奨を中心に、健康と体力の向上を図る。</p> <p>○返事・挨拶・感謝の言葉を「だれにでもいつでも・すすんで・きもちよく」できるようにする指導の充実を図る。</p>
2 学校教育目標	郷土を愛し、自己有用感をもって主体的に学ぶ黒小っ子の育成 ～校訓「黒川大好き 仲良くがんばる」～
3 本年度の重点目標	<p>①全員参加のわかる授業（黒川スタイルの確立） ②志を高める教育活動の推進 ③友達や自分のよさを認め、温かい言葉を掛け合える心の育成 ④いじめの未然防止と早期発見対応 ⑤外遊びの奨励及び健康管理や危険回避能力の育成</p> <p>⑥コミュニティ・スクールの実現（愛郷心の育成） ⑦教職員の資質向上と業務改善（働き方改革）</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	○深い学びに向かう児童一人一人の学びの姿を大切に授業の実践～主体的、対話的な学びに向かう授業づくり～(校内研究の充実)	○「主体的、対話的な学びに向かう授業づくりを行っている」と回答した教員100%。 ○他学年の授業を参観し、自分の授業づくりに生かそうとしている教員100%。	・主体的、対話的な学びにつながる授業づくりを行うために、学習課題や過程を工夫した黒川スタイルを明確にしていく。 ・年3回以上、校内研究のグループ研などを利用し、他学年の授業を参観する機会の設定。 ・国や県の学習状況調査の結果を受けた研修会を年間2回行う。			
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「心の教育を行い、思いやりの心を育てている」と回答した教員100%。 ○「自己有用感を高める4ポイントの徹底実践を行っている」と回答した教員100%	・全職員が自己有用感を高める4ポイントの実践を図るために、職員の意識の継続と徹底を推進する。(全職員1日10人以上ほめる) ・「いのちの教育」の推進やふれあい道徳、学級・全校・地域との関わりの中で、自他の良さを認める活動の場などを年間6回以上設定。							人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「生活アンケート」で「今、困っていることや悲しいことがありません」と回答した児童100%。 ○学校評価アンケートで「いじめに対して、早期発見、起こった場合の迅速かつ丁寧な対応に務めている」と回答した教員100%。	・生活アンケートを毎月実施し、未然防止を図る。 ・全学年共通の教材を活用し、いじめを生まない道徳の授業を行う。年に5回以上共通教材による共通実践を行う。 ・教育相談連絡会や職員連絡会で、配慮を要する児童の情報を共有し、手立てについて共通理解をする。 ・SG及びSSWとの連携を図り、情報交換を行う。							教育相談担当
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した児童90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童90%以上	・児童の良い行いを具体的に褒める。一賞賛を見える化する。 ・各学年、各月や各学期、行事ごとに「黒川きりり」を基に目標を設定する。活動後は振り返りを行い、その内容について放送や掲示を使って紹介する。 ・外部講師を招聘しキャリア教育につながる学習を年に3回以上行う。							
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●「よりよい学校づくりアンケート」で「進んで運動をしたり、体を動かす遊び(外遊び)をしたりしている。」と回答した児童が80%以上	・児童が体を動かす楽しさを味わうことができるような運動や道具等を職員に紹介し(学期に2回以上)、児童と運動のかかわりを深める体育科学習の充実を図る。 ・屋外で運動するよさを放送等を通して伝えることで、外遊びを奨励する。(週に1日以上確れた日) ・委員会活動によるスポーツチャレンジの実施と学級での取組の充実。(年間通じて呼びかけ) ・スポーツチャレンジの結果を児童玄関の掲示板に掲示したり、中間結果を発表したりすることで、取組への意欲を高める。							保体部長
	○危機回避能力の育成	○「体を強くするための健康教育や命を守るための安全教育を行うことができた」と回答した教員100%	・年間4回の避難訓練の前後に、学級で訓練の必要性や避難方法について指導する。 ・月1回の集団下校の日に、学級で下校時のルールを確認する。 ・学校生活でのけがや事故を防ぐために、具体的な資料を作成し、学期に5回以上ミニ研修の機会をつくる。(週1回連絡会)							安全教育担当 養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●会議や行事の在り方の見直しによる業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減。	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守できるよう業務の見直しを行い、45時間以内の教員が100%	・業務記録をデジタル化し、全職員の超過勤務時間を可視化することで、互いに時間外在校時間を意識できるようにする。 ・業務量の偏りがないように、分掌ごとに適切に振り分ける。 ・SEI-NETの掲示板機能を活用し情報の共有を図ることで、会議や連絡会の回数・時間を削減する。							教頭
	○職員室の整理整頓、校務分掌ごとの文書等の整理などを行うことによる業務の効率化を行い、業務がしやすくなったと感じる教員が100%	○職員室の整理整頓、校務分掌ごとの文書等の整理などを行うことによる業務の効率化を行い、業務がしやすくなったと感じる教員が100%	・過去の文書やサーバー内の不要なデータを整理する ・誰もが探しやすい表示や分類をする。 ・共有文書、データは誰もが参照できる場所に保管する。 ・維持できるようにルールの共通理解を図る。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				○特別支援教育の充実	○全職員での情報共有と校内支援体制の確立 ○外部機関との連携、専門研修の充実→即個別実践化	○特別支援に関する専門性が向上したと答えた教員90%以上 ○情報共有を定期的に行う(毎週の職員連絡会前、教育相談連絡会2か月に1回)。	・特別支援教育に関する研修会を年間3回以上行う(UDの考え方による学級経営、個別の支援計画作成、発達障害の理解など) ・必要に応じて支援会議や情報交換を行い、全職員で共有する。			
○愛郷心の育成	○「子ども伊万里学」や「コミュニティスクール」の推進	・「伊万里市や黒川町が好きだ」と回答する児童90%以上	・学校サポーターやコミュニティセンターと連携し、子どもたちが主体的に地域と関わることができる学習活動を各学年、年間2回は設定する。							教務主任・教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・</p> <p>・</p> <p>・</p>
----------------	----------------------------